



江戸川学園取手中・高等学校 医科コース・医科ジュニアコース

中高二貫教育体制で医師への志と素養を育み 世界の医療を視野に入れた医師へ

1993年、医学部進学に特化した医科コースを設けた江戸川学園取手。2016年度には中等部に医科ジュニアコースを設け、中高二貫6年体制で医学部をめざすカリキュラムも確立している。同コースの特色と教育内容について、竹澤賢司校長と兼龍盛医科コース長に語ってもらった。



今年の獨協医科大学病院見学ツアーの様子。導入したばかりの最新鋭のCTスキャンの説明に熱心に耳を傾ける生徒たち

「なぜ医師になるの？」と常に問いかけ 医師への強い意欲を確認

「世界規模の変化とともに、日本でも

将来の医師不足が予見される時代に医科コースは誕生しました。設立当初から茨城県の高校だから地域医療ではなく、国際社会で活躍できる医療人の育成を意識していました。高い山に登らなければ広い景色は見えませんが、これからの医師には、世界と地域、それぞれに目を配る広い視野と、高い目標を掲げて上を目指す姿勢が不可欠で、そのため確かな学力と人間性を

養うのが医科コースです。これは規律ある進学校として、学習指導と人間教育に力を入れてきた本校の開校以来の精神でもあります」と設立にあたっての理念を竹澤校長は語る。

現在では同校からの医学部進学者は約1500名に上り、OB・OGは世界各国で医師として活躍している。また、2016年度からは中等部に医科ジュニアコースが新たに設置され、6年一貫のよりきめ細かな教育も可能になった。

「勉強ができるから医師になるのではなく、責任感と志を持った医師になつて欲しいと私たちは考えています。そのため高一進学時に、医科コース志望者全員に作文を含めた選抜試験を行います。意欲溢れる生徒を再選抜しています。また教員は、なぜ医師になるの？と繰り返し生徒に問いかけます。医師への強い意欲を常に確認し、生徒同士が切磋琢磨することでモチベーションが

高まると思っています」と医科コース長の兼先生は言う。

カリキュラムでは、中・高ともに、体験型の教育を重視している。特に、独自教科の『メディカルサイエンス』では、「医療問題」「科学実験」「医療統計」「科学英語」の4分野で、高一から高3までが学年の枠を越えて教え合い、学び合う協働学習を特長としており、たとえば、「医療問題」なら、再生医療の倫理面について考えを深め、議論やテーマに沿った研究を行うなど、常に生徒が自分なりに考えることを重視している。

アメリカの最先端医療に触れる メディカルツアーを実施

更に今年度からは、カリフォルニア大学サンディエゴ校(UCSD)を訪れる「アメリカ・メディカル・ツアー」も始まった。これは、アメリカの世界最先端の医療事情を肌で感じるのを目的とした7日間のツアーで、同校の研

究室や施設の見学、特別医療講話、医学部学生や研究員とのパネルディスカッションなど、医療関係に特化した内容だ。

引率した兼先生は、「本校の卒業生のネットワークをあらためて実感しました」と話す。

日本での病院見学や一日医師体験などでも、受け入れてくれる病院・施設に在籍する同校OBの医師たちが、後輩のために、と様々に協力してくれているが、今回のUCSDへのツアーでも同様に在籍する複数の卒業生の協力を得られ、生徒たちは最先端の研究の一端に触れることもできたからだ。「先輩たちの活躍する姿に自らの将来を重ね、モチベーションを高めていけるのはの強みです」

今は、医師自らが自身のキャリアを考え、築いていく時代だ。

「自分で考え、自ら未来を切り開くチャレンジ精神を持って医師への道をめざしてほしい。生徒の夢は学校の目標。我々もその夢をかなえるために、全力でサポートします」と竹澤校長は力強く語った。



今年初めて実施されたアメリカ・メディカルツアーでは世界最先端の医療にも触れた



医科コース長
兼 龍盛 先生



学校長
竹澤 賢司 先生

